

第25回

学生と教職員の交流の場

学内と社会を結ぶ交流の場

琉大21世紀フォーラム



日時

平成21年 1月 9日(金)
17:15～18:15

場所

琉球大学法文学部新棟 2階215教室

話題：近世琉球と日本の関係史再考

—島津氏琉球侵攻400年・江戸立(江戸上り)・絵図資料—

発表者：豊見山 和行 (琉球大学教育学部教授)

2009年は、薩摩藩島津氏による琉球侵攻戦争(1609年)から400年目に当たります。戦前以来の研究では、島津氏の従属国となった近世の琉球(1609-1879)は徹底的に搾取され、政治的主体性も剥奪された「長良川の鶴」のような哀れな存在として描かれていました。しかし、近年の琉球史研究では、そのような見方は大きく修正されつつあります。

江戸幕府へ派遣された琉球使節の見方もそのひとつです。江戸立(江戸上り)の使節団は、島津氏から異国風を強制されたため、琉球人への偏見や誤解を「日本人」へ与える根源になったという捉え方が主流でした。しかし、それらの根拠となる史料を丹念に検討し、新たな史実や江戸立の絵図、琉球国内の衣服制度などを吟味すると、旧来の見方が一面的であったことが分かってきました。島津氏の従属下にあった琉球国の実相を多面的に再検討することは、現在にいたるヤマトと沖縄の関係史を捉え直すことにつながるものと思います。400前の歴史的事件とその後の歴史を再考するきっかけの年として、2009年があるのかも知れません。

発表者プロフィール



豊見山和行
琉球大学教育学部教授

略歴

1956年 沖縄宮古島生まれ
1980年 琉球大学法文学部史学科卒業
1989年 名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学
1991年 琉球大学教育学部専任講師
1992年 琉球大学教育学部助教授
1999年 博士(歴史学)〔名古屋大学〕
2004年 琉球大学教育学部教授

主な著書

『琉球王国の外交と王権』吉川弘文館、2004年(単著)
『日本の時代史18 琉球・沖縄史の世界』吉川弘文館、2003年(編著)
入間田宣夫・豊見山和行『日本の中世5 北の平泉、南の琉球』中央公論新社、2002年

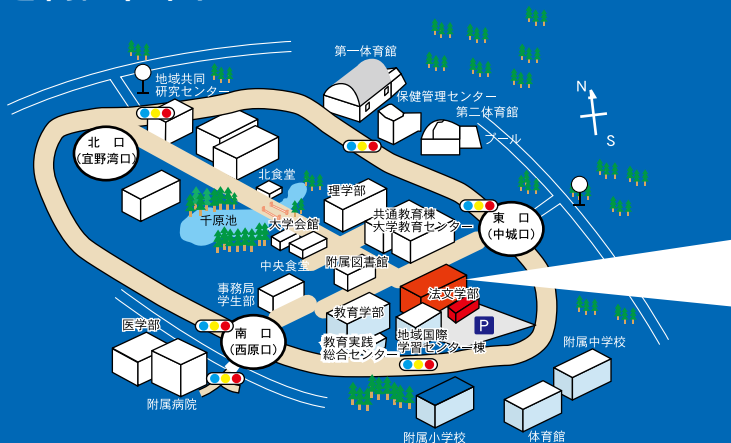


●今後のフォーラム（予定）●

第26回 講師：波平 宜敬（琉球大学工学部教授）
 話題：「沖縄におけるブロードバンド通信ネットワークの危機！
 - 琉大から世界へ -」
 日時：2009年 1月30日（金） 17：15～18：15

※なお、学外来訪者において臨時フォーラムを開催することがあります。

建物配置図



法文学部新棟2階

